

米原市民報

日本共産党米原市会議員
山脇正孝 Tel.52-1093
日本共産党湖北地区議員団
事務局藤田正雄 Tel.55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>



過酷な生活保護現場の実態

検証委員会で徹底検証を

生活保護行政の改善を

検証委員会を設置

Q、すでに判決後に「談話」を出されているが、判決について、改めて所感をお聞かせ願いたい。

A、（総務部長）判決後に市長コメントとしてお伝えしたとおり、市民の安全と安心を確保する立場である公務員としての行為が、市民の皆様の信頼を失う結果となったことに対し、改めてお詫びを申し上げます。

市としては、この判決内容を重く受け止め、裁判で明らかとなった事柄を分析するとともに、今後設置します「米原市生活保護業務検証委員会」からの提言をいただき、再発防止に取り組み、市議会議員の皆様や市民の皆様の信頼を取り戻せるよう、職員一丸となって法令遵守、綱紀粛正に努めていく所存です。

A、（市長）総務部長が私の思いを代弁してくれたと思いますけれども、事件発生時から、私自身も職員を失ったこと、本来ならば職場で人生を送り、米原市に貢献してくれたであろう、優秀な職員を、こういった事件という形で失ったことは、痛恨の極みであります。そういった意味では、新たに第3者委員会で厳格にその背景なりを解明していただき、意見交換のなかで再び事件を繰り返さない、大

事な職員を失わさせない職場をどうつくるのか、そう決意しながら臨みますので、今後とも議会のご支援を賜りたいと思います。誠に申し訳ございませんでした。

140件のケースは事実か

Q、判決によれば、他のケースワーカーが休職に追い込まれるなか、20件の困難案件を含む、140件の案件を1人で抱え込み、精神科医によって適応障害と診断され、1か月程度の休養が必要とされた。にもかかわらず、上司に相談しても環境が改善されなかったと、犯行にいたる経緯が説明された。これは事実か。

職場事実把握出来なかったのか

Q、裁判を傍聴して、今まで知りえなかった、いろいろな事実が明らかになってきた。裁判長は、元職員が男性にユーチューブに投稿するための動画撮影の手伝いを頼まれ、職務が円滑に進むために引き受けたが、事件当日、手伝いをやめたいと男性に伝えたところ、同意を得られなかったため、被害を決定し、男性腹部を刺したと判決のなかで述べられている。元職員が被害を決意するほど、精神的に追い詰められていたのをまったく福祉事務所で察知できなかったのか。

A、事件発生前にも、元職員に対して被害者の対応状況について確認していましたが、特に問題はなく、生活状況についての相談を親身に受けることで、良好な関係を築きつつあるとの報告を受けており、被害を思い至るような精神状態にあることは、残念ながら福祉事務所として察知することはできていませんでした。しかしながら、職員が殺人未遂事件を起こしてしまつた事実は、市としても重く受け止めており、事件に至る背景や、当時の組織としての課題は、しっかりと検証して参ります。

お知らせ 発行日の前日ですみませんが3月20日（土曜日）14時から15時30分）日本共産党近畿オンライン演説会にお越しください。志位委員長が皆さんの疑問に答えます。視聴方法は①湖北地区ライブビューイング会場（米原市顔戸・近江公民館）で②自宅のパソコン・スマホで③お知らせの党員に視聴できる会場を確認する方法があります。パソコンでは「日本共産党近畿演説会」と検索するか、スマホでは下のQRコードを読みとってご視聴ください。

